Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-16

第4章 地域歴史遺産を活用できる人材の育成

井上, 舞
市澤, 哲
加藤, 明恵
横山, 朋子

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,18（2019（令和元）年度事業報告書）:53-56

(Issue Date)
2020-03-22

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012156

第4章
地域歴史遺産を活用できる人材の育成

地域歴史遺産の活用をはかるリーダー養成教育プログラム

人文学研究科地域連携センターでは、2004年度から2006年度まで、工学部建築学科などと協力しつつ、文部科学省の支援をうけ、「地域歴史遺産を活用できる地域リーダー」の育成を目的とする学生教育プログラムの開発に取り組んできた（文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム）。この事業によって開発された教育プログラムが、2007年より文学部と大学院人文学研究科の正式科目として採用された。とくに人文学研究科では、「地域歴史遺産活用研究」「地域歴史遺産活用演習」と「地域歴史遺産活用企画演習」の3科目が、研究科内の「選択必須共通科目」として位置づけられることになった。地域連携センターでは2007年度より、これら3つの科目の授業内容と素材を提供している。3科目のうち、「地域歴史遺産活用研究」（学部講義名は地域歴史遺産保全活用基礎論A・B）は、地域歴史遺産の現状と課題を把握し、その活用のための基礎的知識と能力をつける入門講義である。「地域歴史遺産活用演習」は、地域歴史遺産の分類・整理・解読・展示内容などの実践的方法を学び取る専門的演習である。「地域歴史遺産活用企画演習」は、活用のための企画展示等を自治体関係者や地域住民と一緒に企画考案するような実践的演習である。

専門コースの学生・院生は、この3つの講義・演習をすべて履修し、専門外コースの学生・院生はまず「地域歴史遺産活用演習」を取得し、自分の興味にしたがって「地域歴史遺産活用企画演習」を履修する構成になっている。

以下、各授業・演習の中身の概要について記す。なお3つの講義のうち、「地域歴史遺産保全活用基礎論A」は、博物館科目の「博物館資料論」としても開講された。

1．地域歴史遺産活用研究（学部向けは「地域歴史遺産保全活用基礎論A」（前期／第1・2クォーター）・「地域歴史遺産保全活用基礎論B」（後期／第3・4クォーター）

いずれの授業も、奥村弘・村井良介・木村修二編『地域歴史遺産と現代社会』（神戸大学出版会、2017年）をテキストとし、以下の内容で実施した。

〈前期・第1Q〉地域歴史遺産論（1）資料論

① 4/5「序論：地域社会の未来のための地域歴史遺産」（奥村弘・人文学研究科教授）
② 4/12「現代資料論」（佐々木和子・地域連携推進室特命准教授）
③ 4/19「地域文献資料論」（木村修二・人文学研究科特命講師）
④ 4/26「歴史系博物館資料論：博物館の現状と課題」（古市晃・人文学研究科准教授）
⑤ 5/10「災害資料論」（吉川圭太・人文学研究科　特命講師）
⑥ 5/17「地域歴史遺産の救出」（加藤明恵・人文学研究科特命助教）
⑦ 5/24「地域歴史遺産をとりまく状況」（井上舞・人文学研究科特命助教）
⑧ 6/7「まとめと試験」（市澤哲・人文学研究科

教授）

〈前期、第２クォーター〉地域歴史遺産論（2）活用論

① 6/14「地域歴史資料学とは何か」（市澤哲・人文学研究科教授）

② 6/21「地域文書館（史料館）論」（松岡弘之・尼崎市立地域研究史料館）

③ 6/28「大学史資料と史料室」（野邑理栄子・神戸大学附属図書館大学文書史料室室長補佐）

④ 7/5「文学資料と文学館」（井上勝博・芦屋市谷崎潤一郎記念館学芸員）

⑤ 7/12「歴史文化を面白がり共感を生むために」（若狭健作・尼崎南部再生研究室）

⑥ 7/19「地域歴史遺産とまちづくり」（松下正和・　地域連携推進室特命准教授、上田脩・丹波市棚　原自治会ＰＵ事業推進委員会）

⑦ 7/26「自治体史編集事業と地域資料」（河野未央・尼崎市立地域研究史料館）

⑧ 8/2「歴史遺産・歴史資料の活用と大学の果たす役割」（坂江渉・兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室研究コーディネーター）

〈後期・第３クォーター〉地域文化財論（1）兵庫県内の文化財

① 10/3「序論―地域の歴史遺産とその保全―」（奥村弘・人文学研究科教授）

② 10/10「文化財とはなにか」（山下史朗・兵庫県教育委員会文化財課長）

③ 10/17「地域の文化財の発見」（黒田龍二・工　学研究科教授）

④ 10/24「兵庫県内の地域の文化財―埋蔵文化財とはなにか―」（甲斐昭光・兵庫県教育委員会文化財副課長）

⑤ 10/31「兵庫県内の地域の文化財―史跡・文化的景観―」（岡﨑正雄・元兵庫県立考古博物館事業部長）

⑥ 11/7「兵庫県内の地域の文化財―仏像を中心に―」（神戸佳文・兵庫県立歴史博物館）

⑦ 11/14「兵庫県内の地域の文化財―近代化遺産を中心に―」（足立裕司・工学研究科名誉教授）

⑧ 11/21「まとめと試験」（古市晃・人文学研究科准教授）

〈後期・第４クォーター〉地域文化財論（2）保存・活用論

① 12/5「大規模自然災害と文化財救出、その効果について」（内田俊秀・京都造形芸術大学名誉教授）

② 12/12「遺産の保存をめぐって―農業と農耕文化を中心に―」（堀尾尚志・農学研究科名誉教授）

③ 12/19「景観復元とまちの形成－地図、地形環境と土地の履歴－」（菊地真・人文学研究科准教授）

④ 12/26「地域歴史遺産の保全・継承と活用を考える―襖の下張り資料―」（松下正和・地域連携推進室特命准教授）

⑤ 1/9「歴史的建造物の保存・修復」（足立裕司・工学研究科名誉教授）

⑥ 1/16「博物館運営と歴史遺産の活用」（山地秀俊・神戸大学経済経営研究所教授）

⑦ 1/23「都市景観とまちづくり」（三輪康一・工学研究科名誉教授）

⑧ 1/30「地域歴史遺産の保全・活用とその可能性」（井上舞・人文学研究科特命助教）

〈全体を通して〉

昨年度に引き続き、基礎論Ａでは主として文献史料に関する講義、Ｂでは歴史的建築物、美術工芸、埋蔵文化財、産業遺産、都市景観に関する授業として編成した。Ａの講義は市澤が、Ｂの講義は古市が統括し、毎回の授業は井上舞がコーディネーターとして参加し、講師と受講生のやりとりや質疑のとりまとめなどを行った。受講生は学部・大学院・聴講生を含めて、Ａが31名、Ｂが19名で、文学部以外の学生・大学院生の受講生も多かった。

（文責・井上舞）

２．地域歴史遺産活用演習（学部授業名は「地域歴史遺産活用演習Ａ」、大学院文学研究科は「地域歴史遺産活用演習」、人文学研究科は「地域歴

史遺産活用企画演習」）

8月25日（日）から27日（火）まで、神戸大学大学院農学研究科・篠山フィールドステーションにおいて、地域歴史遺産保全活用演習A（学部学生向け）、地域歴史遺産活用演習（大学院博士課程前期課程の大学院生向け）の授業を行った。これは、主に近世・近代の古文書の整理・読解を通じて、地域歴史遺産を基礎とするまちづくり、村おこしについて考える授業で、市民も参加して毎年実施しているものである。

今年度は、篠山市立歴史美術館に所蔵されている山田家文書と中川家文書の整理（目録作成）を行った。また、初学者に対しては古文書の取り扱い方、目録の取り方、また文書の読解についての基礎的な講座を並行して実施した。参加者は学生31人（大学院生を含む）、教員3人（非常勤を含む）であった。

また、2月5（水），6日（木）には、三木市の旧玉置家住宅において、「地域歴史遺産保全活用専修B」（学部向け）、「地域歴史遺産活用演習」（大学院前期博士課程向け）、「地域歴史遺産活用企画演習」（大学院後期課程向け）の授業を実施した。趣旨は9月の授業と同じで、市民の参加もあった。今年度は同市の細目地区区有文書の整理作業を行った。参加者は51名と、前年度を10名近く上回る人数であった。

（文責・市沢哲）

特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

2010～2012年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業で開発した、地域歴史遺産を活用できる人材育成プログラムを、普及・定着を図り、2013年度より「まちづくり地域歴史遺産活用講座」とそのオプションプログラムである「古文書解読初級講座」を実施している。

1. まちづくり地域歴史遺産活用講座

本講座は、歴史文化を地域づくりに活用し、次世代に残してゆくために、その担い手となる人材の育成が重要という考えのもとに、年2回、大学と地域で開催してきたものである。今年度は、2019年10月5日・6日に神戸大学文学部において一般市民に向け開催した（主催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、共催：兵庫県教育委員会、COC+ひょうご神戸プラットフォーム協議会、後援：神戸市教育委員会、神戸市灘区）。参加者は16人であった。意見交換会では、過疎化や地域コミュニティの弱化の下での地域歴史遺産の保存やデジタル資料の保存・活用など、現代的課題にも即した議論がなされたほか、史料所蔵者が抱える現実的・具体的な問題が提起されるなど、参加者の高い問題関心のもと活発な議論が行われた。

講座の次第は以下の通り。

10月5日（土）
10:00～10:05　事務連絡
10:05～11:05　奥村弘
「地域歴遺産とまちづくり」
11:15～12:15　井上舞
「地域歴史遺産活用事例の紹介」
12:15～13:10　昼休み
13:10～1325　参加者自己紹介
13:25～14:25　古市晃
「地域の歴史の見方　古代」
14:35～15:35　市澤哲
「地域の歴史の見方　中世」
15:50～16;50　木村修二
「地域の歴史の見方　近世」
10月6日（日）
10:00～11:00　久野洋
「地域の歴史の見方　近現代」
11:10～12:10　木村修二
「歴史資料取り扱いの基礎Ⅰ」
12:10～13:10　昼休み

13:10 ～ 14:00　松本充弘
「歴史資料取り扱いの基礎Ⅱ」
14:10 ～ 15:20　加藤明恵
「災害から地域史料を守る」
15:20 ～ 15:50　アンケート記入
15:50 ～ 16:50　意見交換会
16:50 ～ 17:00　修了書授与・閉講挨拶

（文責・加藤明恵）

2．古文書解読初級講座

10 月 1 日、8 日、15 日、29 日、計 4 回の日程で、神戸大学人文学研究科学生ホールにて開催した。

これまでの「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の受講生に案内し、18 名の参加者があった。講師は河島裕子氏（神戸大学非常勤講師）が務め、「くずし字辞典の使い方や、古文書の時代背景や人びとの暮らしぶりを、教えて頂き大変面白かった」と好評であった。

（文責・横山朋子）